



# 2年学年だより

発行日：令和4年12月23日（金）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：遠藤 広樹 NO. 8

## 2022年を振り返って

副校長 山田 文映

仕事が終わって外に出ると辺りはもう真っ暗なのですが、校内の駐車場にはあちこちにイルミネーションが灯っていて、毎日癒されています。このイルミネーションは高校の環境美化委員会の方たちが付けて下さっているのだそうです。12月に入り、イルミネーションの数が少しずつ増えています。高校の先輩方の活動のお陰で私を含めた沢山の人が帰り道に温かいひとときを頂いています。

先日、学校図書館で「誰が歴史を書いているの？歴史をめぐる15の疑問」という本を見つけました。子ども向けの本ですが、なかなか興味深い事が書いてありました。「歴史」という言葉を聞いただけで眠くなってしまふ人もいるかもしれませんが、人類の歴史は誰かの人生、つまり一人ひとりの物語でできているとありました。教科書に載っている歴史はこれまでの沢山の人の物語の中のほんの一部でしかないのです。歴史は毎日いろいろなところでつくられ、繋がっていきます。

さて、附属中学校では夏休み後の2学期の間にも、様々な物語がありました。9月は南高祭が盛大に行われ、10月には2年生がイングリッシュキャンプ(2泊3日、御殿場)に行きました。11月には生徒会役員選挙、そして12月には3年生が京都研修旅行(2泊3日、京都)に行き、校内では生徒会による全校企画が行われました。また、日常の教科学習、EGG、委員会、部活動等の活動の中でも様々な物語があったと思います。皆さんはどんなことが心に残っていますか。一人ひとりが自分のために頑張ったことや誰かのために行ったことは、まだ結果は目に見えないかも知れませんが、いろいろなところで繋がっていて、新たな歴史を生み出していると思います

2022年もあと少しとなりました。皆さんにとってこの1年はどんな年でしたか？自分の歴史、学校の歴史、社会全体の歴史を振り返り、そして一人ひとりの想いや行動で更に新しい歴史を繋いでいけると良いですね。

寒さが続きますが、お身体を大切に。皆様どうぞ良い年をお迎えください。

# 法教育講座が行われました。

例年、中学2年生を対象に行っている法教育講座が、本年度も12月17日(土)に実施されました。

社会科の学習において、3年生の公民の授業の際に、司法(裁判)に関する学習機会が設けられていますが、本校では、それに先立ち、2年生の時期にこの講座が行われています。

当日は、弁護士の方を4名お招きして、講座を行いました。実際の裁判に近い形式で模擬裁判を行ったのち、被告人は、有罪であるのか、それとも無罪であるのか、各教室でそれぞれ審議を行いました。

今回の講座を通して、みなさんはどのようなことを考えましたか？



## 【1系目】

「法教育講座」では、普段は関わりのない大人に会えて良かった。「弁護士」は、アニメやドラマでしかみたことがなかった。今までのイメージは「堅い人」だった。しかし、生で見えてみて、彼らも人間なんだな。と思った。弁護士さんは、4人全員優しい人だった。

弁護士さんの実際の経験談はとても面白かった。講座を受けるまでは、「裁判」というものに実感が湧かなかった。しかし、それは本当に起きているのだとわかった。もし、私が裁判に関わることになったら、証拠を集める際、私自身で行うことが一番大事だと教わった。裁判など、子どものうちに関わることは少ないことにも触れられることが、南高附属中に進学したメリットだろう。貴重なお話をありがとうございました。( ■■■■ さん)

まず、常識的に考えて、「無罪の可能性が少しでもあれば、無罪にする。」というのを聞いたとき、納得がいきませんでした。裁判にかけられるくらい怪しいのですから、被告人を「犯人っぽい。」と覚えてしまいがちです。しかし、裁判は公平が大事ですから、みんなが犯人だと思っていたとしても、無実の可能性があるので大切にすることは良いと思いました。模擬裁判をやったときも、その視点を忘れないようにしました。だから、被告人を犯人と決めつけずに、証拠品を持っていた理由について考えたりしました。

この法教育講座を終えて、裁判の大変さ、難しさを少しだけ知ることができました。こういうことを日常で考えることはあまりありません。このような機会を与えてくださり、ありがとうございました。( ■■■■ さん)

## 【2系目】

この講座を終えて、私は特に2つのことが印象に残った。

まず1つ目は、1つの根拠に対して様々な視点から考えることの大切さだ。有罪側と無罪側どちらも取り上げている証拠は同じだが、どのような視点で考えるのかによって結果が逆になることが面白いと思う。その証拠から推測できる結論の根拠が多いほど、最終的な結論に説得力が生まれるのだと改めて分かった。

2つ目は、弁護士という仕事についてだ。弁護士になるためには、多くの段階があり、一つひとつをクリアするのにも多くの時間がかかると思った。特に司法試験が大変だなと思った。でも、弁護士バッチは格好いいなと思う。そのバッチが1つの目標にもなるのかなと思った。( ■■■■ さん)



私は今まで弁護士という仕事は、いつも法廷に出て裁判の弁護をしているイメージがあったが、今回の EGG 講座を終えて、弁護士は会社の相談にのっていたり、30~50 件の仕事をいつも抱えていて、とても大変な仕事だと感じた。また、裁判のときも証人などに尋問しないといけないので、証人などが何と言うのかを考えるのは、骨の折れることだと感じた。

今回の模擬裁判では、確実に浜中さんが放火した証拠がないので、無罪になるという考えや、海老名さんの発言や、「相模」の店長の話から有罪という人もいて、裁判の証拠から結論を導き出すのもとても大変なことだと思った。( さん)

### 【3組】

法教育講座では、模擬裁判を見て被告人が有罪か無罪かを話し合うことを通して、より自分事として真剣に法について考えることができた。裁判が無罪から始まることを今まで知らなかったので、被告人を有罪にすることの難しさに気づき、勉強になった。今回、模擬裁判で取り扱った事件の内容は、被告人が有罪とも無罪とも受け取ることができた。実際に話し合いのときには、無罪派3人、有罪派2人と意見が2つに割れ、議論は平行線だった。弁護士の方は有罪になりやすい事例だが、正解は無いと言っていた。しかし、本当の裁判では、有罪か無罪かを決める必要があり、その結果には被告人と原告両者お金の問題や将来のことがかかっている。その責任の重さと判断の難しさを考えると、裁判に関わる仕事は本当に大変だと感じた。( さん)

私はEGG講座で模擬裁判を通して、弁護士の大変さを知ることができた。以前までは証拠を出して被告人をかばうものだと思っていた。しかし、模擬裁判で有罪か無罪を決めることが想像以上に大変だった。

弁護士は自分の考えに自信をもって検察側と争わなければいけないし、被告人の将来がかかっている責任重大でとても大変な仕事だと思う。改めて弁護士という仕事を尊敬する機会になった。また、弁護するときの心の持ち方について、被告人の無罪を証明することが全てのゴールなのではなく、裁判で本当にその人に適当な罪が課せられているかを正しく確認するという考え方で弁護するという考えにとっても納得した。( さん)



### 【4組】

今回の模擬裁判では、被告人は最初は有罪と考えていたが、グループでの話し合いでは、「確実にしたという証拠がない。」「偶然の可能性がある。」という結論となり、無罪という結論になった。今回の講座を終えて、「スタートが無罪」というのが、有罪にするのが難しく、また意外なことだった。弁護士というと、被告人の無罪を証明したり、罪を軽くすることが大きな仕事だと思っていたが、弁護士さんが被告人の「味方」となって心のケアをしたり、被告人の心に寄り添うことが大切だと思った。

将来の夢として目指してみるのもいいかもしれないと思った。( さん)

講座を受けて、法についての理解が深まった。模擬裁判では、被告人と証人の話を怪しいところや矛盾しているところがないかを注意しながら聴くことができた。証拠が少なく、被告人が必ずしも罪を犯したとはいえないのではないかと思い、無罪に投票したが、実際被告人はとても疑わしいと思う。しかし、絶対に犯人だという確証が無かったため、私は被告人が犯人だとは言い切れなかった。今回の講座を受けて、常識的に考えることと、法律や証拠を根拠にして、論理的に考えることの大切さを学んだ。( さん)

## 2学期に頑張った教科📖

| 教科       | みんなのコメントより☺  |
|----------|--|
| 国語       | <ul style="list-style-type: none"> <li>古文や文法は苦手すぎるので、おいていかれないように頑張った!</li> <li>社説や読書がよくできた。授業中もノートに自分の考えをまとめられた。</li> <li>2つの物語の人物関連図を書くことを頑張った。行動から読み取れる気持ちを細かく書くように意識した。</li> </ul>  |
| 社会       | <ul style="list-style-type: none"> <li>学びのプランで単元をもう一度復習することができ、理解を深められた。</li> <li>一番苦手な教科は社会であることを自覚しているから、テストに向けて一番多く時間をかけた。</li> <li>テストに向けてプリントの内容をまとめたり、問題集を何周も解いた。また、授業に出てきた地名を地図帳で調べるようにした。</li> </ul>                               |
| 数学       | <ul style="list-style-type: none"> <li>あまり得意ではないので、完成ノートを計画的に進められました。授業で分からなかったところは、家でも解いてみたりできました。</li> <li>完成ノートで、特に展開は色々なパターンの問題を理解しながら解いた。</li> <li>1学期よりも日々の自宅学習をコツコツと行うことができた。また、問題に対して多角的に考えられるようになってきたので、これからも頑張っていきたい。</li> </ul> |
| 理科       | <ul style="list-style-type: none"> <li>ウインパスの重要語句をしっかりやった。</li> <li>範囲を見て、くり返し解いたり、ポイントをまとめたりできた。自分が「納得!」と思えるまで、解説をみた。</li> <li>元素記号や化学式を何度も復習して暗記した。テストでも、その部分は点数をとることができた。</li> </ul>  |
| 英語       | <ul style="list-style-type: none"> <li>インキャンにも行って、英語をたくさんしゃべって、授業はRound 4のリテリングに入ったので、少しずつ表現できるものが増えてきたように感じる。</li> <li>TGGやインキャンと英語を使うイベントが多かったけれど、そこで積極的に英語を使うことができた。</li> <li>失敗を恐れるよりも、積極的に英語を話しにいった。</li> </ul>                       |
| 保健<br>体育 | <ul style="list-style-type: none"> <li>今まで苦手だった種目にも積極的に取り組んで全力でやったから、体育の授業を充実させることができた。</li> <li>アドバイス活動を積極的に行うことができた。自分の課題を具体的に確認できた。</li> <li>1年生のときは体育は苦手科目だったけど、今年は練習を頑張って、ハードル走のタイムが上がったり、倒立ブリッジができるようになった。</li> </ul>                |

### 自分自身が夏休み以降成長したと 感じるコト★

体重が2kg増えた。

身長

時間で行動を区切ること。

早起きができやすくなった。

精神面

少しため気味だった課題を計画的にできるようになったこと。

仕事に積極的に取り組むことができるようになったと思う。

年齢があがった。

やらかしたときの対応力。

【ひめのひとりごと】今年もあっという間でした。コロナ禍の中、手探り状態ではありますが、行事等が実施されました。準備も含めて、合唱コンクールや体育祭、南高祭、イングリッシュキャンプなどを体験するたびに、みなさんがひとまわり成長するのが実感できました。来年もまた、チャンスを生かして、飛翔の年にしましょう。それでは、良いお年をお迎えください。